

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	日本観光地理Ⅱ		(NGH13J)
講義名 (コード)	日本観光地理ⅡA		(NGH13JA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	塚川 剛	時間数	30
成績評価教員	塚川 剛	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	全国通訳案内士 総合旅行業務取扱管理者 国内旅程管理者	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日本の主要観光地理を学び、日本語や英語で簡単な紹介ができる。前期は、主要都市や各地方ブロック毎、後期は、各都道府県毎に学修する。観光業界に必要な基礎地理を学ぶ。
全体の内容と概要	日本の基本的な観光地理を学び、日本人旅行者のみならず、急増するインバウンド客にも日英両語で簡単な案内ができることを目指す。
授業時間外の学修	上田城を見学して、国宝の松本城や日本各地の名城、入場者が多いお城について理解する。真田幸村を通じて、戦国時代、サムライや忍者について学ぶ。
履修上の注意事項等	母国から友人や家族が長野県に来た時、どこを案内するかを発表してもらう機会を設ける。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期で学習した内容の振り返りができる。	前期の学習成果や日英語の上達度合いを確認する。夏休み中のバイト、帰国、卒業後の予定について話してもらう。
2	都道府県の位置と名前を言える (①)	北海道、青森、岩手、秋田、福島、山形を学習する。
3	都道府県の位置と名前を言える (②)	東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、栃木を学習する。
4	都道府県の位置と名前を言える (③)	新潟、長野、群馬、富山、石川、福井を学習する。
5	都道府県の位置と名前を言える (④)	愛知、静岡、岐阜、三重、滋賀、奈良を学習する
6	①～④を概略できる。	東日本の県庁所在地、大きな都市、有名な観光地を覚える。
7	都道府県の位置と名前を言える (⑤)	大阪、京都、兵庫、鳥取、島根、岡山、広島、山口を学習する。
8	都道府県の位置と名前を言える (⑥)	香川、愛媛、高知、徳島、福岡、熊本、大分、長崎、佐賀、宮崎、鹿児島、沖縄を学習する。
9	⑤～⑥を概略できる。	西日本の県庁所在地、大きな都市、有名な観光地を覚える。
10	①～⑥を概略できる (A)	各都道府県及び日本全体の気候、地形や地理について学習する。
11	①～⑥を概略できる (B)	前週の復習をしながら、各都道府県及び日本全体の産業、歴史、周辺諸国との往来、関西大阪万博等イベントについて学習する。
12	①～⑥を概略できる (C)	日本国内の今後予想される観光地、期待されるスポット、観光業の光と影、オーバーツーリズム対策、人出不足等課題について学習する。
13	①～⑥を概略できる (D)	観光資源について学習する。(和食と日本酒焼酎、味噌、醤油、わさび、寿司、和牛、魚介類、漆器、日本刀、畳、侍、忍者、神社仏閣)
14	まとめとテスト	後期で学んだ内容を中心にしたテストを実施する。
15	フィードバック	試験用紙返却、成績や結果について講評、質疑応答など。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	るるぶ地図でよくわかる都道府県大百科。都道府県かるたPP資料。
参考文献・資料等	随時必要な資料をコピーして配布する。朝刊紙の中から観光関連記事を選んでペアあるいはグループ学習に活用する。(スキャニング等)
備考	随時必要な観光土産、グッズ、記念品、ゆるキャラ商品、レアリアを提示する。(例) 最近、超人気の「ちいかわ」、長野県のアルクマ、千曲市のあん姫。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ホテルサービスⅡ		(NGH13N)
講義名 (コード)	ホテルサービスⅡA		(NGH13NA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	1
授業担当者	竹下 芽衣子	時間数	30
成績評価教員	竹下 芽衣子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	授業の目的は、観光・ホスピタリティ業界で働く上で必要な日本語コミュニケーション力を高めること。ホテルや観光サービスに関する専門的な語彙や表現を身につけて、異文化間などスムーズな対応ができるようになることを目指す。達成目標としては、宿泊施設の予約受付、お客様の案内、クレーム対応などを日本語で自信を持ってできるようになること
全体の内容と概要	教科書【ホテルの日本語】をベースに基本の挨拶や予約対応、観光案内やトラブル対応、ロールプレイを多く取り入れより実践的な内容とする
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の内容の復習確認	前期の復習と後期の流れなどのオリエンテーション
2	教材で基本的知識を身に着ける	【ホテルの日本語】第5課ルームサービス（ルームサービススタッフ）
3	ルームサービス業務の理解	実際の会話練習、教科書の音読、ビデオ視聴とディスカッション
4	実際の基本的ルームサービス業務ができる	ロープレ
5	教材で基本的知識を身に着ける	【ホテルの日本語】第6課対応（コンシェルジュ）
6	コンシェルジュ業務の理解	実際の会話練習、教科書の音読、ビデオ視聴とディスカッション
7	実際の基本的なコンシェルジュ業務ができる	ロープレ
8	教材で基本的知識を身に着ける	【ホテルの日本語】第7課チェックアウト（フロント）
9	チェックアウトフロントの業務理解	実際の会話練習、教科書の音読、ビデオ視聴とディスカッション
10	チェックアウトフロントの業務理解	実際の会話練習、教科書の音読、ビデオ視聴とディスカッション
11	実際の基本的なチェックアウト業務ができる	ロープレ
12	教材で基本的知識を身に着ける	【ホテルの日本語】第8課クレーム対応
13	クレーム対応業務の理解	実際の会話練習、教科書の音読、ビデオ視聴とディスカッション
14	クレーム対応業務の理解	実際の会話練習、教科書の音読、ビデオ視聴とディスカッション
15	実際の基本的なクレーム対応業務ができる	ロープレ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ホテルの日本語
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	レストランサービスⅡ	(NGH13P)
講義名 (コード)	レストランサービスⅡA	(NGH13PA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	小澤 ゆみ	時間数 30
成績評価教員	小澤 ゆみ	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	レストランサービスの実践を通し、敬語を使ったサービスができるようになる 衛生管理や調理・緊急時の対応などの知識を持った専門性のあるサービスができるようになる
全体の内容と概要	フランス料理サービスを理解し、敬語を使ったサービスを実践する 特定技能1号外食業のテキストのうち、衛生管理・飲食物調理の内容を含む知識を学習する
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	レストランの部門ごとの仕事について理解することができる	ホテルのレストランにおける部門ごとの仕事と役割について知る
2	レストランの衛生管理の知識について理解することができる	食中毒の基礎知識・食中毒予防4原則・細菌やウイルスについて知る 食中毒予防のための一般衛生管理について知る
3	レストランの衛生管理の知識について理解することができる	調理器具の洗浄・消毒・殺菌、従業員の健康管理等について知る HACCPの考え方による衛生管理について知る
4	飲食物調理の知識について理解することができる	調理について基本的な材料・調理方法・調理器具について知る
5	飲食物調理の知識について理解することができる	調理場における労働安全・調理機器の扱い・火災防止について知る
6	サービススタッフの基本技術を実践することができる	ワインのサービスについて知り、実践する
7	サービススタッフの基本技術を実践することができる	ワインのサービスを実践する / 実技テスト
8	サービススタッフの基本技術を実践することができる	実技テスト / 敬語ワーク
9	サービススタッフの基本技術を実践することができる	アレルギー・配慮が必要なお客様の対応について知る 体調不良者の対応・災害発生時の対応について知る
10	サービススタッフの基本技術を実践することができる	席次の必要性・席次の基本的な知識を知る 洋食レストラン・会議室・エレベーター・車の席次について知る
11	サービススタッフの基本技術を実践することができる	レストランの基本的な配席・効果的な配席について知り、実践する
12	敬語を使ったサービスを実践することができる	レストラン予約について、敬語でなんとと言うか考え、実践する
13	敬語を使ったサービスを実践することができる	レストラン予約を正しく記録し、必要な配慮を考え配席や席次を決める
14	まとめ	後期期末テスト（筆記）
15	まとめ	テストフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「飲料サービスの教科書」NPO法人日本ホテルレストラン経営研究所刊
参考文献・資料等	特定技能1号外食業技能測定試験学習用テキスト【接客全般】 【飲食物調理】 【衛生管理】
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	旅行業務Ⅱ	(NGH13R)	
講義名 (コード)	旅行業務ⅡA	(NGH13RA)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小林 心花	時間数	30
成績評価教員	小林 心花	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	(株) JTB中部	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本国内の観光地、観光資源、旅行へ動機などを学び、 魅力的なツアーを企画することができる
全体の内容と概要	日本の観光地について教材や電子パンフレットなどを参照し学ぶ。 実際にパンフレットから必要な情報を読み取る
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	理解度を測るため授業で小テストあり

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期の授業内容を振り返ることができる	日本の温泉地・テーマパークなど前期内容を再度確認する
2	日本の観光資源について説明できるようになる	日本の観光資源について学ぶ(パワースポット) 授業最後に小テスト
3	日本の観光資源について説明できるようになる	日本の観光資源について学ぶ(パワースポット) 授業最後に小テスト
4	日本の観光資源について説明できるようになる	日本の観光資源について学ぶ(沖縄) 授業最後に小テスト
5	日本の観光資源について説明できるようになる	日本の観光資源について学ぶ(北海道) 授業最後に小テスト
6	日本の観光資源について説明できるようになる	日本の観光資源について学ぶ(聖地巡礼) 授業最後に小テスト
7	日本の路線・JRについて理解することができる	電車の種類・主要な路線について学ぶ
8	特急・新幹線について説明できるようになる	特急・新幹線について学ぶ。主要な駅名を覚える
9	旅行の種類を理解できる	手配旅行・企画旅行を比較しながら学ぶ
10	パンフレットから必要な情報を読み取ることができる	実際のツアーパンフレットをみながらどのような情報が載っているかを学ぶ
11	パンフレットをつかってツアーを案内できる	お客様に案内すべき内容や注意すべき点を学ぶ
12	日本の観光資源を活かしたツアーを企画できる	お勧めしたいお客様を設定し前期・後期で学んだ内容を参考にオリジナルのツアーをつくる
13	日本の観光資源を活かしたツアーを企画できる	お勧めしたいお客様を設定し前期・後期で学んだ内容を参考にオリジナルのツアーをつくる
14	期末テスト	オリジナルツアーの発表
15	期末テスト	オリジナルツアーの発表

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	地域観光産業Ⅱ	(NGH13V)
講義名 (コード)	地域観光産業ⅡA	(NGH13VA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	山岸 柚果里	時間数 30
成績評価教員	山岸 柚果里	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本の観光ビジネスを知り、観光業の仕組みを理解できる
全体の内容と概要	観光業を深掘りし、内容を理解する
授業時間外の学修	日本での生活を通じて、日本の「楽しい」を観光事業に結びつける
履修上の注意事項等	授業中での言語は原則日本語で実施するため、ヒアリング出来る程度の日本語学力が必須

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率60%以上で期末試験受験者を対象とする		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	日本のハイテクトイレを理解できる	日本の観光地のトイレとは？世界各国から注目を浴びる日本のトイレを知る
2	人はなぜ観光をするのか解できる	観光をする理由や目的を考える
3	観光の役割と効果を理解できる	観光ビジネスについて役割と効果を理解
4	観光プランを考えることができる	インバウンド需要に向けて、観光プランを考える
5	観光プランを発表できる	考えた観光プランを発表する
6	国際観光戦略を理解する	日本の文化を世界に伝えるための観光戦略とは
7	日本のしきたりを理解できる	日本人のしきたりを知る
8	年中行事を理解できる	年中行事を知る
9	組紐を体験できる	<ワークショップ> 日本伝統工芸の組紐をし、紐を作る
10	県別観光調査ができる①	47都道府県別の観光を調査し、資料にまとめる
11	県別観光調査ができる②	資料にまとめた観光内容を発表する
12	県別観光調査ができる③	同上
13	後期のテスト内容を理解できる	後期のテスト内容について理解し、テストの準備をする
14	テストを受けることができる	テスト実施
15	フィードバックができる	半年を振り返って授業の感想を報告

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	英語資格対策Ⅱ		(NKT16H)
講義名 (コード)	英語資格対策ⅡA		(NKT16HA)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	英検準2級以上に合格する。
全体の内容と概要	準2級取得のための対策と問題に取り組む。
授業時間外の学修	「でる順パス単」から毎週50単語ずつ覚えてくる。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	単語601~650 準2級の過去問題に挑戦する	自分の現在の實力を知り、後期に力を入れるべき箇所を知る。
2	単語651~700 / listeningの特徴 がわかるようになる	英検listeningの特徴を知り、問題に取り組む。
3	単語701~750/聞き取れないと ころが聞けるようになる	過去問のlisteningに挑戦し聴きとれない部分を重点的に繰り返し聞く。
4	単語751~800 準2級の過去問題に挑戦する	準2級の過去問題集からの長文を解き、自分の弱点を知る。
5	単語 801~850 / 長文の読み方や出 題傾向がわかるようになる	英検長文の特徴を知り、時間内に読む練習をする。
6	単語851~900 準2級の過去問題に挑戦する	後期最初の授業時と比較し、自分の進み具合を知り勉強法を考える。
7	単語901~950 / 作文の書き方が 理解できるようになる 1	文章を書く際の構成を学ぶ。
8	単語951~1000 / 作文の書き方 が理解できるようになる 2	与えられたトピックを使って自分の意見を書いてみる。
9	単語1001~1050 準2級の過去問題に挑戦する	listening・穴埋め・長文・作文を時間内に行う。
10	Speakingのテストの構成を理解 することができるようになる	Speakingのテストの構成を理解し、どのように受け答えするかを学ぶ。
11	面接の練習をし、自信をもって受 け答えができるようになる	面接の練習をする。
12	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
13	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	英検準2級でる順パス単、DAILY3週間 英検準2級 集中ゼミ 7訂版
参考文献・資料等	Evergreen English Grammar 23Lessons
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	異文化理解Ⅱ		(NKT16L)
講義名 (コード)	異文化理解Ⅱ A		(NKT16LA)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース/グローバルビジネスコース/観光ホスピタリティコース/WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	姚 海玲	時間数	30
成績評価教員	姚 海玲	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	さまざまな国の文化・考え方を学んでお互いに教えあったり認め合うことができるようにする。
全体の内容と概要	各国ごとの冠婚葬祭・ジェスチャー・社会問題などのテーマについて意見交換や発表などをする。そうすることでお互いの文化の違いを教えあい、認め合うことができるようにする。
授業時間外の学修	日頃からいろいろな国の学生たちと交流を持ちましょう。
履修上の注意事項等	発表が多いので事前準備をしっかりと行う事が重要です。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	異文化を理解する目的を改めて知る	それぞれの学科の学習目標を提示し、異文化を理解することの必要性、異文化理解できていない場合どんなことがおきるかなども含めて学習する
2	異文化摩擦について理解できる	異文化摩擦の例を示したり、学生間で異文化摩擦の体験などもシェアしながら異文化摩擦とはということについて学習していく。
3	自分をふりかえることで、コミュニケーションがとりやすくなる方法を知る	グループを作りジョハリの窓、学習スタイル、対立管理スタイル、異文化対応力について自分を数値的に理解する
4	非言語コミュニケーションやパラ言語について理解し考察する	アイコンタクトの意味と受け取り方、表情が与える誤解、ジェスチャー、パーソナルスペース、時間などについてクラス内で意見を交換する。
5	様々な国での催事を知ることによってその国の文化を理解することができる	学生を国ごとのグループに分け、その国の催事について発表をするための準備をする
6	様々な国での催事を知ることによってその国の文化を理解することができる	催事についての発表
7	様々な国の生活についてわかるようになる	様々な国の人々の生活をビデオでみる。(家、街中の様子、仕事、学校の様子、休日の過ごし方など) 各自興味がある国について調べてまとめる。
8	様々な国の生活についてわかるようになる	クラスメートに知ってもらいたい自分の国での生活の様子を調べてまとめる。
9	様々な国の生活についてわかるようになる	自国の生活について国別に分かれて発表する
10	世界の衣食住の歴史について知ることができる	日本の食文化の歴史の紹介と世界の様々な国の食についてビデオを見て、自分の国と比べてみる
11	世界の衣食住の歴史について知ることができる	自国の衣食住の歴史について調べ、まとめる
12	世界の衣食住の歴史について知ることができる	衣食住発表準備
13	まとめと解説	期末テスト(衣食住の発表)
14	まとめと解説	期末テスト(衣食住の発表)
15	まとめと解説	今までの授業を通じてのまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	グローバルな時代を生きるための異文化理解入門・日本語教師のための異文化理解とコミュニケーション
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネスコンピューティングⅡ	(NKT16N)
講義名 (コード)	ビジネスコンピューティングⅡF	(NKT16NF)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	宮原 祥子	時間数 30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	表計算ソフトExcelの基本操作・機能を習得し、実務への活用方法を学習する
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成し、基本操作を身につける 検定試験を目標に、操作・知識を学習していく
授業時間外の学修	操作環境がない生徒がほとんどだと思いますので、メニューの操作方法、文字変換、数式の入力など テキストや授業時配布されたプリントで復習してください
履修上の注意事項等	検定試験はいつでも学校で受験できます 就職活動に合わせて、資格を取得する計画を立てましょう

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Excelの基本操作を覚える 合計・平均の計算ができる	Excelの基本（新規作成・基本用語・入力・保存） 数式の入力方法
2	効率の良いデータの入力方法 SUM関数を理解する	データ入力と関数（SUM）
3	入力したデータの編集方法を 理解できる	表作成（書式設定、表示形式、配置、罫線、挿入・削除、上書き保存）
4	縦棒グラフが作成できる	グラフ作成（縦棒グラフの作成・編集）
5	オートフィルの活用 AVERAGE関数を理解する	オートフィル練習（テキストにないもの） 基本的なワークシートの編集（復習とAVERAGE関数）
6	表作成に必要な機能を復習する	ワークシートの書式設定（表作成復習）
7	縦棒グラフ作成復習 円グラフを作成できる	グラフ作成（縦棒グラフ・円グラフの作成）
8	グラフ作成の応用機能を 理解する	グラフの設定の変更（系列・種類・軸ラベル・複合グラフ作成）
9	実習問題でExcelの活用方法を 理解する	表作成とグラフ作成 実習問題（縦棒グラフ・円グラフ） 伸び率の計算
10	実習問題でExcelの活用方法を 理解する	表作成とグラフ作成 実習問題（縦棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ） 売上金額の計算
11	実習問題でExcelの活用方法を 理解する	表作成とグラフ作成 実習問題 （折れ線グラフ・レーダーチャートグラフ）、SUM関数の応用方法
12	実習問題でExcelの活用方法を 理解する	テスト範囲に合わせた練習問題 1
13	実習問題でExcelの活用方法を 理解する	テスト範囲に合わせた練習問題 2
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスターWord&Excel2021・留学生のためのパソコン入門（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	レベルに応じた資格試験の練習問題

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	キャリアデザインⅡ	(NKT16P)	
講義名 (コード)	キャリアデザインⅡA	(NKT16PA)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	キャリアコンサルタント、 合同会社ライトハウス・キーパース代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会&面接会参加 (WEB含む)
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	出席率70%以上の者を期末試験の受験対象者とし、授業への参加態度や学習意欲も評価の対象とする		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	後期に学ぶことを理解し、主体的に取り組むことができるようになる	【オリエンテーション】後期に学ぶこと、2回目よりニュースの発表 【演習】後期学びたいことについてグループワーク、マンダラチャートの記入
2	学生時代に力を入れたことが書けるようになる	【講義】学生時代に力を入れたことについての書き方 【演習】これまでの学生生活で力を入れたことのエピソードを記入
3	自分のスキルについて、文章にすることができるようになる	【講義】好きなこと、できること、得意なことを考える。資格について考える。 【演習】自分のスキルについて記入
4	志望する業界・企業を選択し、調査ができるようになる	【講義】企業研究の進め方、業界・業種と職種 【演習】志望する業界・企業について記入
5	競合他社について理解し、調査ができるようになる	【講義】競合他社とは 【演習】競合他社について調べ、発表（2分/人）
6	志望動機が記入できるようになる	【講義】志望動機 【演習】競合他社について調べ、発表（2分/人）
7	履歴書の書き方を理解し、記入できるようになる	【講義】記入方法やポイントについて、エントリーシートとは 【演習】志望企業向け履歴書作成、提出
8	履歴書を完成させることができるようになる	【講義】訂正ポイント説明 【演習】志望企業向け履歴書訂正、提出
9	面接の基本を理解することができるようになる	【講義】面接の種類と心構え、面接官の視点、身だしなみ、言葉遣い、 【演習】好印象を与える話し方の練習/個別面談
10	面接の流れを理解することができる	【講義】個人面接、集団面接の流れと対策、オンライン面接について 【演習】学生同士で練習/個別面談
11	実際の面接で聞かれる質問に備えることができるようになる	【講義】実際にあった面接質問例の紹介 【演習】質問例の回答を記入/個別面談
12	面接のテクニックを習得できるようになる①	【講義】面接の種類、面接での評価ポイント 【演習】学生同士で練習、模擬面接チェックシートに沿ってフィードバック
13	面接のテクニックを習得できるようになる②	【講義】面接の種類、面接での評価ポイント 【演習】学生同士で練習、模擬面接チェックシートに沿ってフィードバック
14	後期試験	【試験】選択・記述式(100点)
15	フィードバック、まとめ	【後期試験フィードバック】試験のフィードバック、後期のまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『就職内定基本テキスト』（日本能率協会マネジメントセンター）
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	キャリアデザインⅡ	(NKT16P)
講義名 (コード)	キャリアデザインⅡF	(NKT16PF)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	石田 浩也	時間数 30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間 秋学期
実務者教員	はい	履修区分 必修
実務者教員特記欄	キャリアコンサルタント、 合同会社ライトハウス・キーパーズ代表	授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	・ 社会人として必要とされるマナーを習得する。 ・ 面接の流れを理解し、面接に向けての準備を整える。・ 志望する企業向けの履歴書を完成させる。
全体の内容と概要	講義と演習により、面接へ向けて実践的なマナーやスキル、履歴書の記入方法を習得する。
授業時間外の学修	自身の興味のある企業に関するリサーチ (インターンシップ含む)
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率 70%以上の者を期末試験の受験対象者とし、授業への参加態度や学習意欲も評価の対象とする		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	後期に学ぶことを理解し、主体的に取り組むことができるようになる	【オリエンテーション】後期に学ぶこと、2回目よりニュースの発表 【演習】後期学びたいことについてグループワーク、マンダラチャートの記入
2	学生時代に力を入れたことが書けるようになる	【講義】学生時代に力を入れたことについての書き方 【演習】これまでの学生生活で力を入れたことのエピソードを記入
3	内的キャリアと外的キャリアが理解できるようになる	【講義】自分の内的・外的キャリアを考える方法について 【演習】自分の内的・外的キャリアについて記入
4	未来史が作成できるようになる	【講義】死ぬまでにしたいこと、3・5・10・20・30年後の設計 【演習】死ぬまでにしたいこと、未来史の記入
5	気になる業界について調査できるようになる	【講義】業界について、業界の種類、周辺の業界について 【演習】気になる業界や周辺の業界について記入し、発表（2分/人）
6	志望する企業を選択し、分析ができるようになる	【講義】企業を選ぶ6つの視点を知り、志望する企業を選択 【演習】志望する企業について、6つの視点で分析し、記入
7	競合他社について理解することができるようになる	【講義】志望する企業の競合を知り、調べる 【演習】競合他社について調べ、発表（2分/人）
8	志望する企業への志望動機が書けるようになる	【講義】志望動機の記入のポイント 【演習】志望動機の記入
9	履歴書の書き方を理解し、記入できるようになる	【講義】記入方法やポイントについて、エントリーシートとは 【演習】志望企業向け履歴書作成、提出
10	履歴書を完成させることができるようになる	【講義】訂正ポイント説明 【演習】志望企業向け履歴書訂正、提出
11	面接の基本が理解できるようになる	【講義】面接の基本、マナー 【演習】学生同士で練習/個別面談
12	面接のテクニックを習得できるようになる①	【講義】実際にあった面接の質問例の紹介 【演習】質問例の回答を記入/個別面談
13	面接のテクニックを習得できるようになる②	【演習】質問例を活用し、学生同士で面接の練習/個別面談
14	後期試験	【試験】選択・記述式(100点)
15	フィードバック・まとめ	【後期試験フィードバック】試験のフィードバック、後期のまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク）
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	Webマーケティング基礎Ⅱ		(NKT16T)
講義名 (コード)	Webマーケティング基礎ⅡE		(NKT16TE)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小笠原 あやの	時間数	30
成績評価教員	小笠原 あやの	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	デザインの要素を整理し、わかりやすく相手に伝えるための基本的な手法を理解し、実践する。
全体の内容と概要	普段目にする事の多いDTP、WEB広告などを制作しながら、「色」「フォント」「画像」などその要素の役割、効果的な表現を学び、実践していく。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	出席率70%以上で期末試験受験者を対象とし、授業内ワークへの参加態度並びに意欲も評価対象とする。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	身近にあるデザインを意識して探すことができる	街に出て写真を撮ろう（ロゴマークを探そう）
2	〃	街に出て写真を撮ろう 発表
3	デザインの役割や意味を理解することができる	《グループワーク》問題解決のための広告作り
4	〃	《グループワーク》問題解決のための広告作り
5	〃	《グループワーク》問題解決のための広告作り、発表
6	チーム内で意見を出し合いながら協力することができる	《グループワーク》NBL祭のポスター作り
7	〃	《グループワーク》NBL祭のポスター作り、発表
8	日本古来の風物詩に触れて、自由な塗り絵を楽しむことができる。	狐のお面に色をつけよう
9	素材を楽しく組み合わせ、気持ちを伝えるデザインを考えることができる。	クリスマスカードづくり①
10	〃	クリスマスカードづくり②
11	デザインの「良い」「悪い」を意識し、改善策を考え、実践できる	デザインのブラッシュアップ①
12	〃	デザインのブラッシュアップ②
13	予測できないからこそ生まれるアートを体験できる	1本の線から生まれるアート体験
14	テスト	ペーパーテスト（1年間のまとめ）
15	フィードバック	テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	検定対策Ⅱ	(NKT16V)
講義名 (コード)	検定対策Ⅱ E	(NKT16VE)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	敦賀 由美子	時間数 30
成績評価教員	敦賀 由美子	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	習得したWordの作成力を踏まえ、社外向け文書を正確かつ適切な形式で作成できる実務力の習得を目的とする
全体の内容と概要	社外とのやり取りで求められる文書の構成・表現・体裁を理解し読み手に配慮した文書作成スキルを身につける
授業時間外の学修	ビジネス文書のフォーマットを覚えて、構成・必須項目・書式を理解し、状況に応じて正しく作成できるようになりましょう。
履修上の注意事項等	希望者は日商PC検定の受験が可能です。希望者には対策指導を行います。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	前期学習したビジネス文書の基礎知識を復習	同じ内容の旅行案内を社内文書、社外文書それぞれで作成する
2	文書校正を理解し誤りを自分で見つけ修正できるようになる	Wordの文書校正機能を利用して文書校正を理解する
3	表を活用して情報を整理し読みやすく正確な文書を作成できる	表を活用した送付案内作成
4	図形の操作を習得し、わかりやすい文書作成に活用する	図形を活用した案内図作成
5	読みやすい文書構成ができる力をつける	箇条書き・インデント・タブを利用した文書作成①
6	読みやすい文書構成ができる力をつける	箇条書き・インデント・タブを利用した文書作成②
7	構成要素の配置と編集を習得し目的に合った文書を作成できる	構成要素を並べかえて文書作成
8	要点を整理し文書化できる	メモ書きから文書作成
9	データを視覚化した文書を作成できる	グラフを挿入・編集した文書作成
10	主要機能を総合的に活用し社内外の実務で活用できる読みやすい文書を作成できる	これまでの機能を使った練習問題をメモ書きより作成
11		・あいさつ文
12		・表
13		・図形 ・箇条書き ・インデント、タブ ・グラフ
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	60時間でエキスパートWord&Excel (貸出)
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	スピーチ&プレゼンテーションⅡ	(NKT17B)
講義名 (コード)	スピーチ&プレゼンテーションⅡE	(NKT17BE)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	高木 裕衣	時間数 30
成績評価教員	高木 裕衣	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	パワーポイントを使いながら人前で自分の意見を発表することができる。見ている人がわかりやすい説明とビジュアルツールを作成してプレゼンテーションを行い、将来の就職の場で役立たせる。
全体の内容と概要	作成したPPTを使用しプレゼンテーションの練習を行う。PPTを作成する事だけでなく、正しい日本語を使って分かりやすい説明を行えるように話し方の練習もする。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	スピーチとプレゼンテーションの違いの再確認	プレゼンテーションとは何か。どんな場面でどのように使用するのか。例を見ながら正しいプレゼンテーションの方法を学ぶ。
2	プレゼンテーションをする前の準備の方法がわかる	プレゼンテーション作成のステップ、注意する事などを学ぶ。まずは短いプレゼンテーションを作成する。
3	人前で簡単なプレゼンテーションができるようになる	簡単なテーマに沿ったプレゼンテーションを作成する。
4	人前でプレゼンテーションができるようになる	簡単なテーマに沿ったプレゼンテーションをクラスの中で発表する。
5	最近のニュースについて自分の意見をプレゼンする事ができる。	気になるニュースを調べ自分の意見をまとめる。
6	最近のニュースについて自分の意見をプレゼンする事ができる。	気になるニュースを調べ自分の意見をまとめる。
7	最近のニュースについて自分の意見をプレゼンする事ができる。	気になるニュースについて自分の意見をまとめたプレゼンを行う。
8	分かりやすい発表説明文を作成できる。	それぞれが興味があるテーマの写真を集め、その写真についての説明文を作成する。
9	分かりやすい発表説明文を作成できる。	それぞれが興味があるテーマの写真を集め、その写真についての説明文を作成する。
10	写真を使った発表を行うことができる。	写真を見せながら短いプレゼンを行う。クラスメートに評価をもらう。
11	国際問題についての発表を行うことができる。	自分の興味のある現在起こっている国際問題について調べ、現状・問題の原因についてまとめる。
12	国際問題についての発表を行うことができる。	問題についてのデータを検索し、グラフ等を使ってわかりやすくPPTにまとめる。自分の意見を交えた問題の解決法を考える。
13	自分の言葉で表現することができる	時間を測りながら発表練習
14	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 評価
15	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 評価

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	Listening II		(NKT17D)
講義名 (コード)	Listening II		(NKT17DX)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	The goal of the class is to have a clear and easy understanding of basic English conversation.
全体の内容と概要	We will be using a textbook, audio-book and multimedia to expose the student to a variety of English topics, levels and accents
授業時間外の学修	I don't expect them to do homework but they will have the option of doing research out of class in improve their knowledge. I will provide them time in class to research when needed.
履修上の注意事項等	During lecture and discussion times, they will be expected to leave their phones on top of their desks. During research and study times, they will be allowed to use their smartphones as study tools.

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Learn a self introduction and how to ask questions for understanding	Introductions, Orientation & B.P.U.s
2	Can comprehend a conversation and pick out specialized vocabulary	Frog and Toad are Friends' Part #1 Comprehension, Vocabulary & Word Usage
3	Can recognize and use verbal contractions	Understanding and Using Contractions, Unit 1 pp.6-9
4	Can comprehend a conversation and pick out specialized vocabulary	Frog and Toad are Friends' Part #2 Comprehension, Vocabulary & Word Usage
5	Learning the proper usage of prepositions	Prepositional usage and phrases, Unit 2 pp.10-13
6	Can comprehend a conversation and pick out specialized vocabulary	Frog and Toad are Friends' Part #3 Comprehension, Vocabulary & Word Usage
7	Able to use the verb 'Do' correctly in its tense form	Using What, How and Why Questions and Answering Them, Unit 3 pp.14-17
8	Can comprehend a conversation and pick out specialized vocabulary	Frog and Toad are Friends' Part #4 Comprehension, Vocabulary & Word Usage
9	Able to use the verb 'Have' correctly in its tense form	Phrases Using Possession and Verb Phrases, Unit 4 pp.18-21
10	Can comprehend a conversation and pick out specialized vocabulary	Frog and Toad are Friends' Part #5 Comprehension, Vocabulary & Word Usage
11	Able to use the verb 'Get' correctly in its tense form	Sentences Using the Verb 'Get', Unit 5 pp.22-25
12	Can comprehend a conversation and pick out specialized vocabulary	Frog and Toad are Friends' Part #6 Comprehension, Vocabulary & Word Usage
13	Able to use the verb 'Give' correctly in its tense form	Breakdown of Uses for the Verb Phrases of 'Give', Unit 6 pp.26-29 & Test Review
14	Final exam.	Test
15	Test Review	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	'Practical Listening Skill for English Communication' by Kaibunsha Publications & 'Frog & Toad Collection' audiobook by Arnold Lobel
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	SNS		(NKT17F)
講義名 (コード)	SNS		(NKT17FX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	WEBマーケティングコース/観光ホスピタリティコース	単位数	1
授業担当者	横内 和加	時間数	30
成績評価教員	横内 和加	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	個人事業 AERU PLUS 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	Instagramを中心としたSNSの特性を理解し、アカウントの立ち上げ・運用・分析までのプロセスを習得する。投稿制作を通じてコンテンツ発信能力を体得する。
全体の内容と概要	Instagramのビジネス運用をモデルとした、実践的なSNSマーケティング演習。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	SNSの役割を理解する	そもそもなぜSNSをやるのか。情報発信とコミュニケーションの本質。
2	【リサーチ】 テーマ決定する	応援したい地域資源やジャンルをリサーチ。発信テーマを決定する。
3	【設計】 アイコン制作する	「フォローしたくなる」アイコンをAIを使って生成
4	【設計】 プロフィール制作する	「フォローしたくなる」プロフィール文章の作成
5	投稿の種類を理解する	Instagramの各種投稿の役割を理解し、目的に応じた最適な発信方法を学ぶ
6	【導線】 ハイライト構築をする	ハイライトを整え、ユーザーを誘導。カテゴリー分けとハイライトの表紙制作。
7	ストーリーズ投稿をする	アンケートや質問機能の活用案を練り、フォロワーとの距離を縮める投稿を試作する。
8	フィード投稿を制作する	1枚目で足を止めるデザインと、複数枚（カルーセル）で魅せる情報の構成を構築。
9	フィード投稿を制作する	キャプション（本文）のライティングを学び、視覚と文字の両面から訴求する。
10	リール投稿をする	春学期のスキルを転用。短い尺で「最後まで見てもらう」ための動画を制作する
11	リール投稿をする	ターゲットに届く音源や編集手法を取り入れ、より広い層へ届ける工夫を凝らす。
12	インサイト分析を学ぶ	保存数やリーチ数などの指標を理解し、ユーザー心理を読み解く分析手法を体得。
13	DMやコメントへの対応を学ぶ	DMやコメントへの誠実な対応、ファンを作る返信術、SNSリテラシーの習得。
14	運用報告の準備をする	構築したアカウントのコンセプトと制作物を整理し、成果発表の準備を行う。
15	成果を発表し共有する	構築したアカウントの振り返りとフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	ビジネス日本語Ⅱ	(NKT17H)	
講義名 (コード)	ビジネス日本語ⅡE	(NKT17HE)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	原 泰明	時間数	30
成績評価教員	原 泰明	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	将来日本で仕事に就きたいと考えている学習者が、社内外で遭遇するビジネスの場面において、良い人間関係を築きスムーズに業務を行えるようにすることを目的とする
全体の内容と概要	各課のN2レベルの新出語彙の意味・表現方法を学習し、会話、ロールプレイ、練習につなげる
授業時間外の学修	アルバイト先など実践で積極的に活用するように心がけてもらいたい。
履修上の注意事項等	「ビジネスコラム」を通じて、日本のビジネスマナーや習慣について学ぶ

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	「注意する・注意を受ける」ができる2	前半は前回学習した語彙や会話を使用したロールプレイなどで会話練習をする 後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
2	「頼む・断る」ことができる1	頼む・断る際に頻出する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、 モデル会話を理解する。
3	「頼む・断る」ことができる2	前半は前回学習した語彙や会話を使用したロールプレイなどで会話練習をする 後半は ビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
4	「許可をもらう」ことができる1	許可をもらう際に頻出する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、 モデル会話を理解する。
5	「許可をもらう」ことができる2	前半は前回学習した語彙や会話を使用したロールプレイなどで会話練習をする 後半は ビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
6	「アポイント」をとることができる1	6課との区別をしながら許可をもとめる場面の違いについて理解する
7	「アポイント」をとることができる2	面識がある人、面識がない人にアポイントをとる
8	「アポイント」をとることができる3	提案する表現を学習する、約束を変更する表現を学習する。 ロールプレイ
9	他社や企業に「訪問する」ことができる1	受付で取次を頼む、名刺をうけとる、名刺の受け取り方を学ぶ
10	他社や企業に「訪問する」ことができる2	丁寧な言葉で、その場を退出する表現を学ぶ
11	今まで学習した表現を使って会話 できる1	インターンシップ参加の仕方、メールの出しかた
12	今まで学習した表現を使って会話 できる2	面接時の立ち振る舞い
13	第1回～第12回の復習	復習
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『ビジネス日本語30時間』（スリーエーネットワーク）
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語コミュニケーションⅡ	(NKT17J)
講義名 (コード)	日本語コミュニケーションⅡA	(NKT17JA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース Webマーケティングコース	単位数 2
授業担当者	榊原 倫代	時間数 30
成績評価教員	榊原 倫代	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	前半：読解問題を解くためのポイント、新出語彙を学び、実戦問題を解く。 後半：聴解問題を解くためのスキルを学び、様々な形式の聴解問題を解き、解説を加える。
授業時間外の学修	読解問題の新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	文章の仕組みを理解するために 文章の違う点を理解する1	読解：【対比】ほかのものとは比べる1 聴解：実際の試験を理解する1課題理解・ポイント理解
2	文章の仕組みを理解するために 文章の違う点を理解する2	読解：【対比】ほかのものとは比べる2 聴解：実際の試験を理解する2 概要理解・即時応答
3	文章の仕組みを理解するために 言い換えについて学ぶ1	読解：【言い換え】 聴解：実際の試験を理解する3 統合理解
4	文章の仕組みを理解するために 言い換えについて学ぶ2	読解：【言い換え】 聴解：音声の特徴に慣れる
5	文章の仕組みを理解するために 何を何にたとえているかつかむ1	読解：【比喩】 聴解：即時応答のスキルを学ぶ
6	J L P T形式の問題を解くことができる。	JLPT模試 JLPT模試
7	J L P T形式の問題を解くことができる。	JLPT模試 F B JLPT模試 F B
8	指示語を指している言葉を説明できる。	指示語 ドリル&ドリル第一回実践問題
9	下線部に書かれていない主語や対象語を探すことができる。	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第一回実践問題
10	それぞれの動作主を明確にし、文の内容を説明できる。	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第二回課題理解
11	文の前後を見て、言い換えている言葉を見つけることができる。	下線部の意味を問う 第二回課題理解
12	下線部をみて、内容をつかむことができる。	下線部の意味を問う 第三回課題理解
13	長文を短い時間で読み解くことができる。	期末試験直前対策 期末試験直前対策
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	完全マスター読解N2 完全マスター聴解N2
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	日本語資格対策Ⅱ	(NKT17L)
講義名 (コード)	日本語資格対策ⅡA	(NKT17LA)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1学年
対象コース	グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース Webマーケティングコース	単位数 2
授業担当者	田中 清夫	時間数 30
成績評価教員	田中 清夫	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 選択
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	日本語能力試験N2の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	自分の困った状況が説明できる 1	文法（～きり、どころじゃない、ものの、ことに） 語彙（文脈規定第1回）
2	自分の困った状況が説明できる 2	文法（～にしては、ことか）、チェック 語彙（文脈規定第12、13回）
3	友達の話に共感して励ますことができる1	文法（～さえ～ば、ようがない、あげく） 語彙（文脈規定第14、15回）
4	友達の話に共感して励ますことができる2	文法（～もんじゃない、だけ） チェック、まとめ問題
5	友達の話に共感して励ますことができる3	文法（～ばかりに、ことはない、にくらべて） 語彙（言い換え類義第1、2回）
6	友達の話に共感して励ますことができる4	文法（～ものか、というものよ）、チェック 語彙（言い換え類義第3～6回）
7	自分の状況や決意したことを友達に話すことができる1	文法（～ばこそ、ないことはない、だけ、もん） 語彙（言い換え類義第7、8回）
8	自分の状況や決意したことを友達に話すことができる2	文法（～わけにはいかない、のみだ、つもり）チェック、まとめ問題 語彙（言い換え類義第9、10回）
9	レポートなどの、これまでの経緯や状況の説明が理解できる1	文法（～から見ると、一方で、ことから、のみならず） 語彙（用法第1、2回）
10	レポートなどの、これまでの経緯や状況の説明が理解できる2	文法（～といった、にしたがって）、チェック 語彙（用法第3、4回）
11	レポートや論説文の説明が理解できる1	文法（～得る、に反して、に関して、反面） 語彙（用法第5、6回）
12	レポートや論説文の説明が理解できる2	文法（～上、つつある、に限らず）、チェック、まとめ問題 語彙（用法第7、8回）
13	ビジネス場面で社外の人との簡単な受け答えができる	文法（お見えになりました、ご～願えます、ご～上げ、ぼ～思います） 語彙（用法第9、10回）
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	TRY!日本語能力試験N2 ドリル&ドリル文字語彙
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ビジネスマナーⅡ		(NKT17N)
講義名 (コード)	ビジネスマナーⅡE		(NKT17NE)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	松尾 早苗	時間数	30
成績評価教員	松尾 早苗	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日本で働くにあたって必要な基本的なマナーやコミュニケーションを習得
全体の内容と概要	テキスト+実例学習+ロールプレイを中心に行う
授業時間外の学修	日本の風習・文化に関心を持ちながら日常生活を送る
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画	

回	到達目標	授業内容
1	前期復習	テキスト復習
2	社外マナーを理解する	電話対応、名詞の扱い方、クッションとしての雑談、席次
3	社外マナーを理解する	案内と見送り、訪問時、営業活動（会社訪問）
4	ビジネスのスキルを理解する	敬語の使い方、話し言葉、書き言葉
5	ビジネスのスキルを理解する	ビジネスメール、手紙の書き方（ハガキ、封筒）
6	ビジネスのスキルを理解する	日本の会社のコミュニケーション文化
7	ビジネスのスキルを理解する	クレーム、トラブル対応
8	ビジネスのスキルを理解する	商談
9	ビジネスのスキルを理解する	起業のためのビジネスマナー
10	ホテル・旅館で働く基礎知識を理解する	各部署の仕事、フロントの仕事演習
11	飲食店で働く基礎知識を理解する	各部署の仕事、接客演習
12	面接に仕方を理解する	身だしなみ、マナー、話し方
13	試験前まとめ	復習
14	後期試験	テスト
15	テスト解説	解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TOEIC対策Ⅳ	(NKT25D)
講義名 (コード)	TOEIC対策ⅡA	(NKT16JA)
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年 2学年
対象コース	英語キャリアコース / Webマーケティングコース / 観光ホスピタリティコース	単位数 2
授業担当者	高野 恵	時間数 30
成績評価教員	高野 恵	講義期間 秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分 必修
実務者教員特記欄		授業形態 講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	TOEIC500点を旨す。
全体の内容と概要	TOEICテストの概要を知り、基礎を復習しながら確実に問題を解けるようにする。
授業時間外の学修	新しい語彙・フレーズの復習をし、会話文などの音読練習をする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	リーディングパートの模試問題を解く	リーディングパートの模試問題を解く。
2	Part5の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part5の復習。
3	Part6の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part6の復習。
4	Part7の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part7の復習。
5	Part7の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part7の復習。
6	リスニングパートの模試問題を解く	模試問題Part1の復習。
7	Part1の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part2の復習。
8	Part2の解答と解説が理解できるようになる	過去問題を通して自分の達成度を判断し、これからの勉強法を考える。
9	Part3の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part3の復習。
10	Part3+4の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part3+4の復習。
11	Part4の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part4の復習。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST Book 2: Intermediate
参考文献・資料等	
備考	